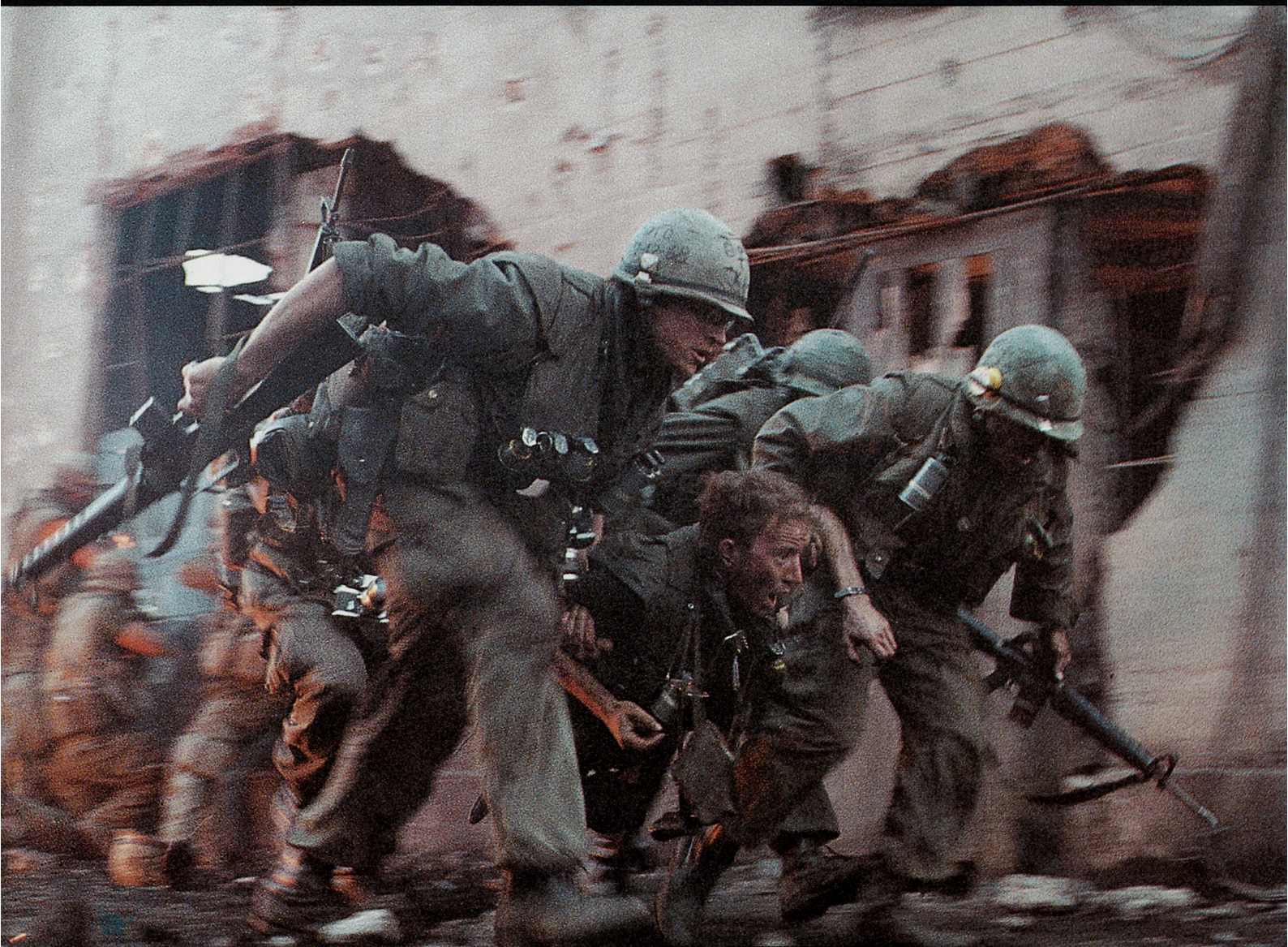


“映画史上最高の戦争映画”と
全世界の批評家が絶賛。



スタンリー・キューブリック作品..

フルメタル・ジャケット

ワーナー・ブラザーズ 製作 スタンリー・キューブリック 作品 フルメタル・ジャケット

主演 マシュー・モティーン/アダム・ボールドウィン/ビンセント・ドノフリオリ/アーメイ/ドリアン・ヘアウッド/アリス・ハワード/ケビン・メジャー/ハワード/エド・オロス

脚本 スタンリー・キューブリック/マイケル・ハー/グスタフ・ハスフォード (原案) (ジョー・タイマース) グスタフ・ハスフォード 共同製作 フィリップ・ホブズ 製作総指揮 ヤン・ハーラン

Stanley Kubrick's
FULL METAL JACKET

製作
監督 スタンリー・キューブリック

WARNER BROS. A WARNER COMMUNICATIONS COMPANY
© 1988 Warner Bros. Inc. All Rights Reserved.

スタンリー・キューブリック作品



Stanley Kubrick's
FULL METAL JACKET

フルメタル・ジャケット



● PRODUCTION NOTES

“あのキューブリック”の最新作にして、集大成——。
その完成度の高さ、テーマの深さ故に絶大なる信頼度を得、その寡作故に神格化、カリスマ性すら帯びているスタンリー・キューブリック監督。そのキューブリックが、『2001年宇宙の旅』(’68)から20年の歳月を経て、20年前の史実を題材とし、尚且つ、彼の映画作家としての20年来の集大成として、『シャイニング』以来実に7年ぶりに完成させた待望の新作がこの『フルメタル・ジャケット』である。

1967年、南カロライナ・パリス島の合衆国海兵訓練基地。そこで“1個の殺人マシン”となるための過酷な訓練を経た若者たちは、やがて、ベトナムの前線へと送り込まれる。そして、68年1月30日、フエ市を中心に、激烈なテト(正月)攻撃が開始された……。原作は、「ベトナム戦争に関する最良のフィクション」と評された小説“ショート・タイムズ”(グスタフ・ハスフォード著)、作者ハスフォードは、主人公ジョーカー二等兵と同じく海兵隊所属の報道員としてベトナムに転戦。その体験を活かし、あるがままの戦争の諸相を描いた。

常に時代を先どりするキューブリックはこの『フルメタル・ジャケット』(’87)において、「戦争」を題材として、人間を忽ち「道具」若しくは「兵器」につくり替えてしまう意思とメカニズムを描いているのだが、その邪悪で無慈悲な遂行のメカニズム自体、他ならぬ人類が作り出したものだという事実を、底知れない戦慄を持って描写している。その恐怖は、核の恐怖よりも深く、途方もない。

ここに、キューブリックの人類に対する大いなる断罪と警鐘がある。その意味で、これはキューブリック映画の集大成といえる。と同時に、世界中の批評家が「戦争映画の最高傑作」と絶賛する所以もここにあるのだろう。

出演は、主役の“ジョーカー”二等兵に「ホテル・ニューハンプシャー」「パーティー」「ビジョン・クエスト——青春の賭け」のマシュー・モディーン。YAスターであった彼は、丸坊主で海兵隊報道員としてベトナムに赴き、戦争を分析的に観察し、やがて、主戦論者の戦争のロマンをかなぐり捨て、想像だにできなかった「殺人兵器」に変貌していくジョーカーを見事に演じ、文字通り新境地を開いた。冒頭から強烈な印象を与える訓練教官ハートマン軍曹を演じるのは、リー・アーメイ、元海兵隊指導教官の彼は、当初テクニカル・アドバイザーとして参加したが、その特異なキャラクター故にキューブリックに抜擢された。その他自称「筋金入りの人殺し」—“アニマル・マザー”役に『マイ・ボディガード』『普通の人々』のアダム・ボールドウィン、「カウボーイ」役に「ザ・ディ・アフター」のアーリス・ハワード、「黒人に引き金を引かせるノ」が口癖の“エイトボール”役にTV映画「ルーツ」のドリアン・ヘアウッドが出演している。

その一作一作に常に斬新な撮影技術(『2001年宇宙の旅』の特撮テクノロジー、スリットスキャン、『時計じかけのオレンジ』のポップな前衛美術、『バリー・リンドン』のF0.7レンズ、『シャイニング』のステディカム等)を導入したキューブリックは、今回、映画の「対話」に「革命」を起こすことに挑戦した。そして、音そのものに関しても、「最後のミキシングの時など、ひとつの足音がサウンドトラックでどのような響きを有するかという些細な部分まで気にした」という。「サイレント映画にサウンドが導入されて映画が演劇になってしまった」と主張する彼は、この作品でダイアログの「革命」を試みている。

尚、南カロライナ合衆国海兵隊新兵訓練基地とベトナム・フエ市は、殆どセット撮影で、ロンドン近郊とテムズ河沿岸の町ベクトンのガス工場跡地に、200本のヤシがスペインから空輸された。撮影後、その工場跡地はテト攻勢後のフエそのままに焼け爛れた廃墟になったという。

● REVIEW

■NEWSWEEK

「この映画は、戦争を腐敗と人間性を失わせる疫病として描写し、人々を究極の戦慄で身震いさせる。現在の監督で、キューブリックほど感性を伝える映画の世界を創造できる監督は他にはいない」

■LOS ANGELES TIMES

「これは冷徹に観察されたコミック・ホラーの世界だ。その容赦のないリポートは、決して夜のニュース番組では観られないものである。」

■THE GLOBE and MAIL

「この作品は、凶暴で痛烈、皮肉で冷徹、そして、道徳を超越した」

■THE NEW YORK TIMES

「完全主義的、完成度の非常に高い作品」

■WASHINGTON POST

ベトナム戦争を、これほど雄弁に描いた映画は初めてだ

■NEW HOUSE NEWSPAPER

空極のベトナム映画だってアプラトンよりいい?勿論そうだ

■KXAS-TV,DALLAS

プラトン、ディア・ハンター、地獄の黙示録を凌ぐ

■CBS-THE MORING PROGRAM

傑作という他ない



●脚本・製作・監督 スタンリー・キューブリック

その一作一作が、映画史上にモニュメンタルな作品となって、スタンリー・キューブリックは、いまや世界でもっとも注目される映画作家の一人となった。時代を先どりする鋭い文明批判的な彼の視野はますます冴えわたり見事な映像芸術の世界を堪能させてくれる。

1929年7月26日、ニューヨークのブロンクス区に開業医の子として生まれ、タフト・ハイスクールを卒業。10代初期でカメラ狂となり、16才のときはルーズベルトの死を扱った組写真がルック誌に買いとられ、フォトグラファーとしての第一歩を踏み出した。

53年、戦争映画『恐れと欲望』を自費で製作から監督、脚本、撮影もかねて作り、アート・シアターで公開。ついで「非情の畏」⑤を発表したが、その頃、ジェームス・B・ハリスと知りあった。ハリスの父はテレビ映画配給会社の社長で、ハリスはプロデューサーをめざしていた。ハリスと組んだギャング・アクション「現金に体を張れ」⑥で、一躍、脚光を浴び、これを第一作にハリス=キューブリック・ピクチャーズを創立。「突撃」⑦「スパルタカス」⑧「ロリータ」⑨「博士の異常な愛情」⑩「2001年宇宙の旅」⑪「バリー・リンドン」⑫「シャイニング」⑬を発表した。

3月ロードショー

特別鑑賞券(一般¥1200/学生¥1100)発売中!

有楽町マリオン新館7F

丸の内ルーブル (214) 7761

渋谷東急文化会館1F

パンテオン (407) 7219

新宿歌舞伎町

ミラノ座 (202) 1189

池袋東口サンシャイン60階通り

シネマサンシャイン1 (982) 6107

伊勢丹斜め向い

新宿東映 (351) 3061

町田中央通り・東急ビル2F

まちなか東急 (22) 2255

0427 (22) 2255

千葉劇場 (27) 4591

センブラ・ショッカー間入る